

実践例「学習指導の深化・充実」

「課題6 主体性を育てる学習指導過程の改善と充実」

I. 学校名 上ノ国町立河北小学校【檜山管内】



II. 研究の概要

1. 研究主題（1年次/2年次計画）

「自ら考え、伝え合い、学び合う子の育成」
～算数科における「学び合い」と「振り返り」の工夫を通して～

2. 研究仮説

○仮説1 自分の学びを確かめる「振り返り」（今年度重点）

学びの過程や変容を自覚させる振り返りをすることで、次の学習や日常生活へと結び付け、発展的に考える力を身に付けることができるであろう。

★身に付けさせたい力・・・学習意欲、次に生かす力

○仮説2 本時のねらいに沿った「学び合い」の充実（来年度重点）

ねらいに沿った学び合いの機会を充実させることで、主体的に学び、考えを深め、広げる力を身に付けることができるであろう。

★身に付けさせたい力・・・主体性、考えを深め、広げる力

3. 研究の内容

①仮説1に関わって（今年度重点）

ア 学習感想による振り返りの工夫

- ・「振り返り」から授業を組み立て、本時のねらいをより具体的に把握する。指導案にも具体例を提示する。
- ・教室に「振り返りのポイント！」を掲示し、視点を絞って感想を書かせたり言わせたりする。

イ 単元終わりの振り返りの工夫

- ・日常の場面、具体的な場面に置き換えた算数事例を提示し、話し合い活動で振り返る。
- ・単元で学んだことを日常の場面に置き換えて振り返る。
- ・学習感想を書いてじっくり交流する。

ウ ICTの活用

- ・タブレット、実物投影機などのICTを効果的に活用する。

②仮説2に関わって

ア 課題設定の工夫

- ・児童が学び合いたくなるような課題を設定する。（身近な課題、実生活で生かせる課題）

イ 交流の仕方の工夫

- ・ホワイトボードの活用
- ・算数用語カードの活用→数学的な表現を用いた説明ができるようにするため
- ・交流の手順の掲示→類似点、相違点を見つけつつ、「はかせどん」に導くための手順

ウ 学習形態〔ペア、グループ、全体〕の工夫

- ・学年の発達段階や学習のねらいによって、学習形態を選択する。

エ ICTの活用

- ・タブレット、実物投影機などのICTを効果的に活用する。

4. 「河北学習スタイル」「算数を学習するときの約束」について

「河北 学習スタイル」

- 1) 本時の活動：めあて(課) 問題(問) 考え方(考) まとめ(ま) 振り返る(返)
- 2) 課題提示は短い言葉で簡潔に伝える。(本時の学習全体の見通しを示す。)
- 3) 教師の指示説明はなるべく少なくする。(一学年指導全体の50%)
- 4) 考える時間を保障し「静寂な時間」を作る。
- 5) 練習の時間を必ず作り定着を図る。
- 6) 学び合いの場面を意識的に取り入れる。

「算数を学習するときの約束」

- 1) 聞かれていることには波線を引き、キーワードを見つける。(あわせて・ちがいは)
- 2) 式に関係ある数字を丸で囲む。
- 3) 図や絵に表す。また線分図や数直線、グラフや表に表すことができるようにする。
- 4) 式と図と答えの関係を確認する。
- 5) 見やすく分かりやすいノート作りのための指導をする。(余白があってもよいので見やすいノートを作る。自分の考えを吹き出しなどにして書けるように余白を設けるようにする。)

5. 具体的な実践例(校内研究より)

第3.4年生 算数科 学習指導案

日時 令和3年12月15日5教時
児童 第3学年 男子2名 女子3名計5名
第4学年 女子3名計3名
授業者 担任 滝澤 圭 支援員 金子 志奈子

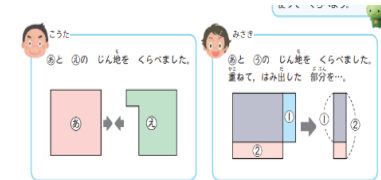

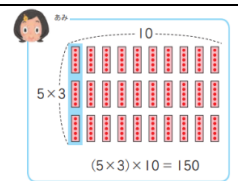
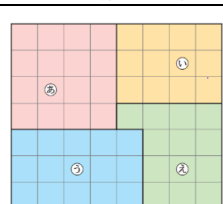
①本時の学習

ア 単元名 3年「掛け算の筆算を考えよう」4年「広さの表し方を考えよう」

イ 本時の目標

<p>第3学年 問題場面をとらえ、立式し、5×30の計算の仕方を考える。</p> <p>【知・技】① 発言・ノート 【思・判・表】① 発言・ノート</p> <p>【態】① 発言・観察</p>	<p>第4学年 陣取りゲームで得られた図形の面積を比べ方を考える。</p> <p>【思・判・表】① 発言・ノート</p> <p>【態】① 発言・観察</p>
---	--

②本時の展開

選	学習活動	□発問、指示 ★仮説 ▲支援 ◇評価		学習活動	選	
ふりかえる	・本時の問題場面を、用紙を切ってノートに貼ってから、計算問題に取り組む。 二位数×一位数の練習問題に取り組む	□算数リーダーさんに指示を出す。(答え合わせも行う)	間接 直接	P62の「どちらが広い」を確かめさせる。 <div style="border: 1px solid green; padding: 5px; display: inline-block;">どの用紙がどれだけ広いでしょうか？</div> □P63の陣取り表の広さくらべをします。広い順に並べて理由を説明しましょう。(教科書は見せない)	広さ比べは、「重ねたり、同じ大きさのマス数を数える」ことを確認する。 ・重ねるので、用紙を切り比べる活動を始める。	つかむ
5×30のような、かける数が二桁の掛け算の仕方を考えよう						
ふかめる	問題場面を確認します。	□本時の問題場面の確認し立式させる。 □5人がけの椅子を横に30個並べる、しかし×30はできないので、どのように並べたら計算できるかな？並べ直して、計算式を書いてみましょう。	直接 間接	▲SN重ねて比べた時の説明の仕方支援 教科書の説明の例  この時点ではどのくらい？はだせていない。	用紙を切って重ねて、広さ比べをし、ホワイトボードにはって説明の準備をする。 ◇広さの比較を説明しようとしている。 発表準備や早くできたら3人で交流する。	ふかめる
ふかめる	5人がけのいす用紙を実際に並べながら式を考えて、計算してみる。 	▲TM並べ方や、まとまりの作り方支援 まとまりごと立式し計算	間接 直接	□発表してください。 □どの用紙が広いかわかったけど、どのくらい大きいかすっきり説明するにはどうしたらいいか？ □重ねないで数える方法はないか？	ホワイトボードを使って広さ比べの発表をします。 ㊸と㊹では㊸が小さい□が1個分大きい。 ㊺と㊻では㊺が中くらいの□が1個分大きい。	ふかめる
まとめる	$5 \times 30 =$ で できないので× $5 \times 2 \times 15 \rightarrow$ $10 \times 15 \triangle$ $5 \times 3 \times 10$ できる ○ 5×30 ↓ $5 \times 3 \times 10$ ㊼	 $(5 \times 3) \times 10 = 150$	直接 間接		用紙を切らないので、2枚目の用紙に補助線をいれて、同じマスをつくる。 あ 16個 い 12個 う 15個 え 13個	ふかめる
	練習問題に取り組む。					
ふかめる	$5 \times 40 =$ $7 \times 30 =$ $6 \times 50 =$ $12 \times 30 =$		間接 直接	例 広さ比べをするときは、同じ大きさのマスを作って数えるとよい。	自分たちでまとめてみる。 ㊼ 広さ比べをするときは () とよい。	まとめる
ふ	今日の学習をふりかえろう				今日の学習をふりかえろう	ふ

6. 研究の成果と課題

① 研究仮説 1 に関わって

- ・子ども達が振り返りを意識し、日常的に書くことで、自分の言葉で書けるようになってきている。→算数だけでなく、他教科、行事、河北ノートなど、様々な場面で、先生方が意識して振り返りを取り入れている。この蓄積が、じわりじわりと効いてきていると思う。
- ・単元終わりの「振り返りの用紙」については、児童の発達段階、特性に合わせて担任の方で作り直してもらえるように提案すべきであった。
- ・子ども達を書いた「振り返り」については、研究部で集め、まとめて、考察したい。《次年度について》
- ・振り返りから授業を組み立てる（児童にどんな振り返りをさせたいかイメージし、授業を構築していく）検証を進めていきたい。
- ・振り返りの時間は、特に複式だと確保が難しい。毎時間できなくても、ここぞ！というタイミングで振り返る、テストの後に振り返る、単元終わりに振り返りの授業をやってみるなど、今年度のスタンスを続けていければと思う。
- ・次の学習や日常生活と結びつく振り返りにどうつなげていけるか、検証していければと思う。
- ・振り返りの表、振り返りの用紙など大枠は提案するが、共通の目的意識は持ちながら、児童の実態に応じて、担任の先生でどんどん手直しして行ってほしい。その実践を交流し、検証することで、よりよい実践になっていくと考える。

② 研究仮説 2 に関わって

- ・先生方が子ども達の「自ら」を意識し、子ども達に考えさせ、話し合わせたり発表させたりする場面を多く作っていた。その根底には、どの学級においても安心して話せる環境があった。児童アンケートの結果にも表れている。《次年度について》
- ・『来年度は「学び合い」が重点。
- ・学習リーダーを育てるための手立て
- ・心が動く課題設定の工夫
- ・「学び合い」に向かうまでの手立て
- ・基礎学力の向上、前時の振り返り、スモールステップで学び合いへ）

③ 次年度の研究の方向性

- ・来年度もこの方向性で進めていく。
- ・来年度は「学び合い」を重点としていく。
- ・児童の思考・表現・習熟・振り返りの時間を確保するためにも ICT の効果的な活用について研修を進めていく必要がある。

④ 働き方改革の視点から

★研究の進め方★授業研究の資料の簡略化★授業研究（教材研究）の時間確保